

## 公益財団法人朝日新聞文化財団 2016 年度事業計画

(はじめに)

2016 年度の政府経済見通しは、実質で 1.7% 程度、名目で 3.1% 程度の経済成長を見込むものの、中国をはじめとする新興国等の景気の下振れや金融資本・商品市場の動向など、依然として不透明な要素が根強い。

主に助成事業を賄う基本財産からの運用収入については、金融緩和による低金利が続く中で、預金利息部分は低調な状態が続いている。株式配当についても、大幅な増加は見込みにくい状況にある。大阪国際フェスティバルについても、地域経済の回復の遅れもあって、各種協賛金集めや集客に向けてさらなる開拓努力が必要になってきている。

一方で、公益法人活動に対する社会の関心は高まり、当財団の諸活動への期待は着実に増している。以上の状況を踏まえて、本年度は以下の点を柱として事業計画を策定した。

- ① 文化財保護助成および芸術活動助成の深化とより適切な助成の在り方を模索し、助成先とのコミュニケーションを強化する。
- ② 大阪国際フェスティバルをより地域に根付かせ、持続可能な事業としての基盤をより強固なものとしていく。
- ③ 公益性の観点を保持しつつ、いっそう効率のよい財団の運営に努める。

事業ごとに主な点を掲げると、次のとおりである。

### 1. 音楽会、美術展覧会等の事業に対する助成（定款第 4 条 1）

音楽祭、美術展覧会の開催等の芸術活動に対し助成する。16 年度実施事業の申請受付は 2015 年 12 月 10 日に締め切り、16 年 2 月 15 日（美術分野）と 2 月 12 日（音楽分野）に芸術活動助成選考委員会を開催し、有効な申請総数 339 件の中から 153 件に合計 2500 万円の助成を決めた。うち被災地関連は 17 件 400 万円を助成する。

なお、昨年から申請受付を WEB システムに一本化した。2016 年度は申請書の修正や登録方法の一部修正を行うことで一層の事務効率化を図り、選考の質的向上に寄与したい。加えて、2015 年度から始めたフェイスブックをより充実させ、助成先とのコミュニケーションを強化し、事業のフォローアップを進める。

## 2. 文化財の保護等のための事業・活動に対する助成（定款第4条2）

人類共有の文化遺産を将来の世代に継承していくことを目的に、保護、保全等のための事業・活動に対して助成を行う。2016年度の実施事業については15年6月中に申請を受け付け、9月の文化財保護助成選考委員会で49件の申請の中から複数年度事業を含めて31件、合計4900万円の助成を決定した。このうち被災地支援として2件計330万円を助成する。また、文化財保護や修復・公開の重要性を啓蒙普及するシンポジウム等のイベントを朝日新聞社との協力により、当財団の助成事業に付帯した広報活動として行う。これらを含めた2016年度の文化財保護の事業予算は、昨年と同額の5550万円とした。

なお、助成申請はWEBと書類を並行して受け付ける形を継続する。併せてフェイスブックや直接訪問を含めた助成事業のフォローアップ活動を充実させていく。

## 3. 文化・学術等の向上に寄与した者に対する顕彰（定款第4条3）

芸術家、研究者等に対する顕彰を目的として朝日賞を贈呈する。近年の業績を主な対象に幅広く候補者を調査し、例年12月初めに開く朝日賞選考委員会で若干名選定する。

## 4. 音楽会等の公演の主催（定款第4条4）

第54回大阪国際フェスティバルをフェスティバルホールで16年4月から開催する。内容は4月7日『ネヴィル・マリナー指揮、アカデミー室内管弦楽団』、同24日には2回目となる『大阪4大オーケストラの響演』、6月2日『ヤニック・ネゼ＝セガン指揮、五嶋龍バイオリン、フィラデルフィア管弦楽団』、同26日「山田和樹指揮、河村尚子ピアノ、バーミンガム市交響楽団」、10月6日『ズービン・メータ指揮、ウィーンフィルハーモニー管弦楽団』、11月29日『ラン・ラン ピアノリサイタル』の各コンサートを実施する。

なお、2015年度から始めたブログページを一新し、専用ホームページとフェイスブックによる情報発信を強化する。

以上